

藤原宮朝堂院東地区の調査(飛鳥藤原第138-3次)

農業用水路改修にともない、橿原市の委託を受けておこなった調査です。2006年1月11日から始めました。調査区は朝堂院地区の東約60mの地点。朝堂院東第二・三堂、朝堂院回廊、朝堂院東門に平行する、南北150mにわたるトレンチです。しかしその幅は、東西2m程しかありません。そのなかで藤原宮に関連する遺構として、柱穴、先行条坊、石組溝などを検出しました。

柱穴は、柱を据えるために掘られた穴です。掘形が1mを超えるものだけでも14基以上みついています。直径30cm程の柱が残っているものもありました。数棟の掘立柱建物に復原できそうですが、調査区の狭さのため、建物の全容がわかるものではありません。

先行条坊は宮内の諸施設の建設に先立ち、東西南北に設定された道路とその側溝です。五条条間路の北側溝とみられる溝がみつかりました。

石組溝は東西方向に人頭大の石を3段に積んだ、比較的手の込んだつくりです。底にはやや小さい丸い石を並べています。溝幅は50cm、深さ45cm程。排水施設として機能していたようです。

今回の調査区周辺は本格的な発掘がおこなわれておらず、様相が皆目わからない地区です。その一端を知ることができたのが今回の大きな成果です。官衙施設の遺構と考えられますが、平安宮では、このあたりは太政官や民部省といった重要官衙が占めています。ただし今回の成果の全容を知るには、周辺の調査を待たなければなりません。調査区の長さと同幅の狭さに苦勞させられましたが、今後に向けての展望が大きく広がりそうな発掘でした。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部 加藤 雅士)



柱根(左上)と石組溝